

# 平成18年度活動報告



特定非営利活動法人  
日本・イラク医学協会

# イラク国救急医療 マネジメントシステム研修

イラクでは治安の悪化によるテロの影響で、救急医療が逼迫しています。さらに、フセイン政権下で崩壊した救急医療システムが依然として機能していません。こうした背景を受けて、当協会では日本国際協力機構(JICA)からの委託により、イラク国救急医療マネジメントシステム研修を、実施致しました。(第1回:平成18年9月5日~29日)、第2回:平成18年11月21日~12月22日)

研修は、救急医療に関連する講義や施設見学、討論を通じて、日本の救急医療システムを理解することを目的としています。研修対象者は、救急医療分野で3年以上の経験を有する者で、行政担当官(保健省や州保健局)です。

各参加者が自分の地域の実情を併せて救急医療サービスモデルを計画し、アクションプランとして発表しました。



第1回研修メンバー集合写真  
(平成18年9月5日-9月29日)



第2回研修メンバー集合写真  
(平成18年11月21日-12月22日)

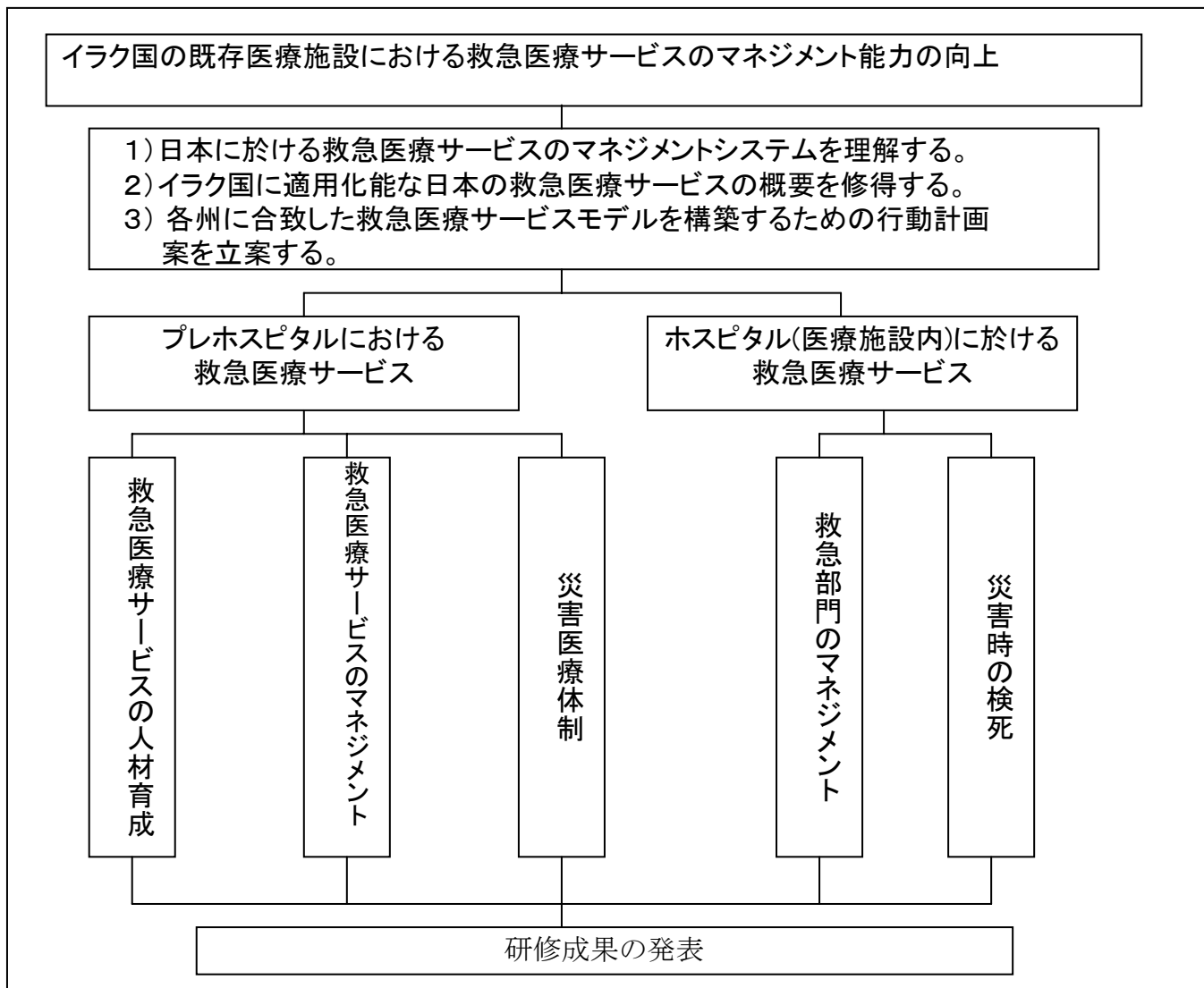
## 到達目標毎のカリキュラム構成

<到達目標>

イラク国の既存医療施設における救急医療サービスのマネジメント能力の向上のため、日本に於ける救急医療サービスのマネジメントシステムを理解し、イラク国に適用化可能な日本の救急医療サービスの概要を修得する。その上で、各州に合致した救急医療サービスモデルを構築するための行動計画案(アクションプラン)を立案する。

- ①プレホスピタルに於ける救急医療サービス
  - ①-1 救急医療サービスの人材育成
  - ①-2 救急医療サービスのマネジメント
  - ①-3 災害医療体制
- ②ホスピタル(医療施設内)に於ける救急医療サービス
  - ②-1 救急部門のマネジメント
  - ②-2 災害時の検死

## イラク国救急医療マネジメントシステム研修コース概念図



## ▶ 国士舘大学、救急振興財団 「救急救命士養成システム」



イラクでは、治安の悪化のために多くの医師が国外に避難していること、病院や救急車もテロ対象となり、医療に従事することが忌避される傾向があることから、医療従事者の人手が極度に不足している現状があります。また、プレホスピタルにおける救命の重要性は認識されているものの、救急救命士の体系だった教育がなされていません。人手不足と教育の不整備より、十分な医療が提供できない現状の打開を図るために、救急救命士の育成方法を習得しました。

## ▶ 救急部門施設見学



国立国際医療センター



済生会 千里病院  
甲斐先生



都立広尾病院



都立広尾病院  
古賀先生



兵庫県災害医療センター



兵庫県災害医療センター中山先生講義  
「震災発生時の対策」

様々な病院、センターの救急部門を見学しました。各々の訪問先で、温かく歓迎して頂き、熱心なご講義を頂きました。



## ▶ 講義・討論



日本医科大学 島田先生講義  
「テロ対応シミュレーション」



日本医科大学 近藤先生  
「病院における集団患者の受入態勢」



国士舘大学 田中先生講義  
「救急救命士の育成システム」



福岡和白病院 富岡先生講義  
「途上国の救急医療体制」



東京医科歯科大学 大友先生講義  
「診療標準化と教育」

すべての講義において、研修員の熱心な参加態度が非常に印象的でした。講師の先生方にも沢山の質問が出され、活発な討論がなされました。

# 保健省副大臣Mr. Amar-Al-Safarと 援助コーディネーターDr.Shadmanの招聘



Amar-Al-Safar保健省副大臣  
(左)とDr. Shadman(右)



研修員それぞれのアクションプラン  
に対する意見や研修内容について  
のコメントを頂きました。



閉会式にて



救急医療マネジメントシステム研修の成果を、イラク国保健省副大臣 Amar-Al-Safar氏に視察して頂くために、保健省援助コーディネーターの Shadman医師と共に、日本へ招聘致しました。研修員達の質の高いアクションプランに非常に満足し、本研修に対して高い評価を頂きました。また、今回研修に参加した医師達の士気を鼓舞すると同時に、引き続き日本の医療分野における援助に対する強い期待を表しました。